

若商デパートの歴史

一九五五年の文部省産業教育研究校の指定を受けて、「商業科の校内における実習方法の研究」をテーマに販売実習を研究することになった。この研究の中で、生徒が組織する「模擬株式会社若商デパート」構想が浮上し、他校視察や定款の作成、組織の編成と、多岐にわたる準備が1年足らずの間に成し遂げられ、一九五六年三月二十日に若商デパートが発足し、同年五月七日に実質的な営業を開始した。同年十一月十六日に研究発表が行われ、盛会に終わったと記録にある。同日第一回株主総会も実施された。

創業当時の若商デパートの基本方針は次の三つであった。

- ◎総合的な実習の場としてのデパート
- ◎実社会の企業のあり方を学校に取り入れる場としてのデパート
- ◎自分の受け持つ職務についての責任のあり方を学ぶ場としてのデパート

当時は、先進的な取り組みとしてテレビで放映され、県内外から多くの視察者が訪れた。一九五七年にはオハイオ州立大学のハンナ博士が来校され、若商デパートを視察された。

二〇〇五年十一月三日に、初代社長の花見彰さんをはじめと多くの来賓の方を迎え、創業五十周年記念式典が開催された。現在は、校内での販売、十日市などイベントへ出店参加、企業と連携した「若商みそ」開発販売、納税手続きなど企業の実務を実践するまでに至っている。今後も実践的教育の場としての役割が期待される。



入学時販売



ハンナ博士来校



創業当時の重役



昭和31年 研究発表の様子